2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月11日

上場会社名　株式会社イメージ・マジック　上場取引所　東
コード番号　7793　ＵＲＬ　https://imagemagic.jp
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）山川　誠
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理本部長　（氏名）栗原　俊幸　ＴＥＬ　03(6825)7510

配当支払開始予定日　ー
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	8,163	18.7	615	23.7	620	24.3	423	42.6
2025年12月期第３四半期	6,878	23.2	497	36.4	499	33.4	296	18.4

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	171.22	170.09
2025年12月期第３四半期	122.82	117.33

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	3,756	2,299	61.2
2025年12月期	3,508	2,055	58.6

（参考）自己資本　2026年12月期第３四半期　2,299百万円　2025年12月期　2,055百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	―	0.00	―	32.00	32.00
2026年12月期	―	0.00	―		
2026年12月期（予想）				35.00	35.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2026年12月期の業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,700	13.8	650	16.9	650	16.4	440	33.4	175.15

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料６ページ「２.四半期財務諸表及び主な注記（３）四半期財務諸表に関する注記事項（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
② ①以外の会計方針の変更　：無
③ 会計上の見積りの変更　：無
④ 修正再表示　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	2,572,235株	2025年12月期	2,572,235株
② 期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	120,056株	2025年12月期	60,056株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	2,473,480株	2025年12月期３Ｑ	2,417,675株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用） …… 6
（セグメント情報等の注記） …… 6
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 6
（重要な後発事象） …… 6

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社は、「個性と創造性溢れる豊かな社会作りに貢献します。」を経営理念とし、先端ＡＩ技術と独自のシステム・ハードウエアを融合させた「オンデマンド製造の自動化プラットフォーム」を展開する企業として事業を推進しております。

当社の展開するサービスは、インターネットを通じてアパレルや雑貨に１点からオリジナルのプリントができるオンデマンドプリントサービスと、クラウド型の受注・生産管理システムやデザインシミュレーター付オンデマンドＥＣなどのソフトウエア、プリンター・たたみ機・梱包出荷機などのハードウエアを、印刷会社やアパレルメーカーなどの事業者に提供するソリューションサービスであります。

オンデマンドプリントの生産フローでは、入荷・名寄せ・たたみ・検品・梱包・出荷といった印刷の前後の工程（ノンプリンティングプロセス）が工程全体の７割以上を占めております。当社は自社工場でこれらの工程を細かく分解・計測し、省人化と自動化を進めてまいりました。

現在は、システム連携による自律運転や、自律走行搬送ロボット（ＡＭＲ）、カメラによる印刷対象の自動認識・位置決めなどの研究開発・導入を進め、人手不足に対応した「止まらない工場（徹底した省人化と、ミスを未然に防ぐ製造フローのＤＸ）」の実現を目指しております。

あわせて、画像生成ＡＩを活用したデザイン支援の開発や、お問い合わせ対応へのＡＩの活用も進めております。

また、注文を受けてから１点ずつ作るオンデマンド生産は、「必要なものを、必要な時に、必要な分だけ」作る仕組みであり、過剰な在庫や廃棄を抑えることで、環境負荷の低減にもつながっております。

当社が属するオンデマンドプリント業界では、「短納期」や「パーソナライズ」を求める顧客ニーズが一段と強まっております。特に、アーティストやキャラクターなどの“推し”を応援する「推し活」では、作品の公式イラストを使って自分だけのグッズを作れるサービスが登場するなど、１点から作れるオンデマンド生産への需要が広がっております。また、ＡＩ技術の発展により、デザインのスキルがなくても誰もがデザインを生み出せる時代が到来しつつあり、それをカタチにする製造インフラの価値が高まっております。

一方、製造現場では、最低賃金が近年は年５％前後のペースで引き上げられるなど人件費の上昇が続いており、販売価格を維持しながら生産性を高める省人化・自動化の重要性が増しております。

当社はこれらの変化を捉え、1995年の設立以来培ってきたノウハウと国内最大級の生産能力を基盤に、ＡＩとハードウエアの連携を深め、多品種・小ロット生産における競争優位性をさらに高めてまいります。

このような環境の中、オンデマンドプリントサービスでは、様々な顧客ニーズに対応し、オンデマンド生産できるアイテムを拡充すべく新商品の取扱いを強化し、自社ＥＣサイトの「オリジナルプリント.jp」が好調に推移いたしました。ソリューションサービスではハードウエアの消耗品売上高が好調を維持いたしました。また、人件費の上昇に直面する印刷工場に向けて、自社工場で効果を確かめてきた印刷前後の工程の自動化のノウハウと、システムや装置を組み合わせた提案を進めております。

両サービスを横断したプロジェクトとして、当社の仕組みを他社のサービスに提供する取組みも広がりました。デザインシミュレーター付オンデマンドＥＣ「maker town」が、「くらしのマーケット」出店者向けのユニフォーム注文サイトに採用されたほか、株式会社講談社が運営する「ヤンマガCLUB」で８月に始まった、作品の公式イラストを使って自分だけのグッズを作れる新サービス「ヤンチャグッズ」に、デザインシミュレーター連携ソリューション「maker town DTAPI」が採用されました。同サービスでは、当社がオンラインでのデザイン作成の仕組みから、自社工場での製造・検品・配送までを一貫して担っております。

生産面では、受注の伸びに対応するため、自動化省力化による自社工場の稼働を高めるとともに、協力工場との連携を強めてまいりました。さらに、９月18日開催の取締役会において、当社のシルクスクリーン印刷を長年担ってきた主要な生産協力工場である株式会社長谷川美芸を、株式取得及び簡易株式交換により完全子会社化することを決議し、10月26日付で完全子会社といたしました。

これにより、当社はインクジェット方式や転写方式のデジタルプリントに加え、シルクスクリーンプリントでも国内最大級の生産能力を有することとなりました。同社の高度な印刷技術と品質管理に、当社が培ってきた前後工程の自動化のノウハウを組み合わせることで、生産性の向上と高付加価値な特殊印刷技術の内製化を進め、拡大を続けるオンデマンドプリント需要への対応力を高めてまいります。

当第３四半期累計期間において、オンデマンドプリントサービスの売上高は7,398,670千円（前年同期比18.6％増）となりました。

また、ソリューションサービスの売上高は764,400千円（前年同期比19.5％増）となりました。

以上の結果、当第３四半期累計期間の売上高は8,163,071千円（前年同期比18.7％増）、営業利益は615,681千円（同23.7％増）、経常利益は620,639千円（同24.3％増）、四半期純利益は423,505千円（同42.6％増）となりました。

なお、当社はオンデマンドプリントソリューション事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載はしておりません。

（２）財政状態に関する説明

（流動資産）

当第３四半期会計期間末における流動資産は2,285,023千円となり、前事業年度末と比較して29,033千円の増加となりました。これは主に売掛金の増加188,704千円、前渡金等の増加に伴うその他の増加149,629千円、仕掛品の増加79,391千円があったものの、現金及び預金の減少395,385千円によるものであります。

（固定資産）

当第３四半期会計期間末における固定資産は1,471,348千円となり、前事業年度末と比較して219,118千円の増加となりました。これは主に有形固定資産の増加203,700千円によるものであります。

（流動負債）

当第３四半期会計期間末における流動負債は1,325,098千円となり、前事業年度末と比較して33,537千円の増加となりました。これは主に買掛金の増加91,435千円によるものであります。

（固定負債）

当第３四半期会計期間末における固定負債は131,613千円となり、前事業年度末と比較して29,171千円の減少となりました。これは主に長期借入金の減少43,610千円によるものであります。

（純資産）

当第３四半期会計期間末における純資産は2,299,661千円となり、前事業年度末と比較して243,785千円の増加となりました。これは主に自己株式の増加99,330千円、配当金の支払80,389千円による利益剰余金の減少があったものの、四半期純利益の計上423,505千円による利益剰余金の増加によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年２月13日付で公表しました当期の業績予想から変更ありません。

なお、上記に記載した業績予想等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2025年12月31日）	当第３四半期会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,167,674	772,289
売掛金	497,945	686,649
商品及び製品	186,810	181,708
仕掛品	40,799	120,191
原材料及び貯蔵品	183,188	194,952
その他	180,356	329,986
貸倒引当金	△786	△753
流動資産合計	2,255,990	2,285,023
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	354,355	421,295
機械及び装置（純額）	473,097	561,710
その他（純額）	218,610	266,756
有形固定資産合計	1,046,062	1,249,763
無形固定資産	52,573	46,672
投資その他の資産		
敷金及び保証金	79,758	81,973
繰延税金資産	59,545	59,545
破産更生債権等	25,225	25,225
その他	14,291	33,394
貸倒引当金	△25,225	△25,225
投資その他の資産	153,594	174,913
固定資産合計	1,252,230	1,471,348
資産合計	3,508,220	3,756,372
負債の部		
流動負債		
買掛金	357,960	449,396
１年内返済予定の長期借入金	70,840	57,520
未払法人税等	107,520	125,774
賞与引当金	－	37,736
商品保証引当金	6,927	6,341
その他	748,312	648,329
流動負債合計	1,291,560	1,325,098
固定負債		
長期借入金	84,164	40,554
資産除去債務	74,755	86,286
その他	1,865	4,772
固定負債合計	160,785	131,613
負債合計	1,452,345	1,456,711
純資産の部		
株主資本		
資本金	347,963	347,963
資本剰余金	522,198	522,198
利益剰余金	1,273,093	1,616,209
自己株式	△87,379	△186,709
株主資本合計	2,055,875	2,299,661
純資産合計	2,055,875	2,299,661
負債純資産合計	3,508,220	3,756,372

（２）四半期損益計算書

（単位：千円）

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
売上高	6,878,376	8,163,071
売上原価	4,056,045	4,860,126
売上総利益	2,822,331	3,302,945
販売費及び一般管理費	2,324,777	2,687,264
営業利益	497,554	615,681
営業外収益		
受取利息	1,032	1,911
受取家賃	1,278	1,917
債務勘定整理益	974	1,019
消費税等差額	941	1,382
その他	1,384	509
営業外収益合計	5,610	6,740
営業外費用		
支払利息	1,890	1,318
支払補償費	1,443	－
その他	471	463
営業外費用合計	3,804	1,782
経常利益	499,359	620,639
特別損失		
固定資産除却損	9,364	3,089
減損損失	36,700	2,000
貸倒引当金繰入額	25,225	－
特別損失合計	71,290	5,089
税引前四半期純利益	428,068	615,549
法人税等	131,112	192,044
四半期純利益	296,956	423,505

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第３四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率等を乗じて計算しております。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前第３四半期累計期間（自　2025年１月１日　至　2025年９月30日）

当社は、オンデマンドプリントソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

Ⅱ　当第３四半期累計期間（自　2026年１月１日　至　2026年９月30日）

当社は、オンデマンドプリントソリューション事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期累計期間に係る減価償却（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は次のとおりであります。

	前第３四半期累計期間 （自　2025年１月１日 至　2025年９月30日）	当第３四半期累計期間 （自　2026年１月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	193,834千円	210,980千円

（重要な後発事象）

（株式会社長谷川美芸の株式取得及び簡易株式交換による完全子会社化について）

当社は、2026年９月18日開催の取締役会において、株式会社長谷川美芸の発行済み株式の一部を取得し、その後当社を株式交換完全親会社とし、株式会社長谷川美芸を株式交換完全子会社とする簡易株式交換を実施することを決議のうえ、同日付で株式譲渡契約を締結し、2026年10月２日付で株式交換契約を締結し全株式を取得いたしました。

なお、詳細につきましては、2026年９月18日に公表いたしました「株式取得及び簡易株式交換による株式会社長谷川美芸の完全子会社化に関するお知らせ」をご参照ください。